

質問事項に関する回答書

(件名)磐越自動車道 龍ヶ嶽トンネル工事

番号	日付	資料の種類	ページ	章の番号等	質問事項	回答
1	5月17日	質問に対する回答書29番号1			鬼光頭川橋A1橋台の構造物掘削について、土砂Ⅰ及び軟岩の数量が設計図書から判断できませんので、土質区分ごとの数量をご教示ください。	鬼光頭川橋A1橋台の構造物掘削における土砂Ⅰ及び軟岩の数量は、設計図(鬼光頭川橋下部工編)3/70に示す柱状図より判断いただき、必要と思われる費用を計上してください。
2	5月17日	質問に対する回答書29番号1			鬼光頭川橋P1橋脚の構造物掘削について、土砂Ⅰ及び軟岩の数量が設計図書から判断できませんので、土質区分ごとの数量をご教示ください。	鬼光頭川橋A1橋台の構造物掘削における土砂Ⅰ及び軟岩の数量は、設計図(鬼光頭川橋下部工編)3/70に示す柱状図より判断いただき、必要と思われる費用を計上してください。
3	5月17日	質問に対する回答書29番号1			鬼光頭川橋A2橋台の構造物掘削について、土砂Ⅰ及び軟岩の数量が設計図書から判断できませんので、土質区分ごとの数量をご教示ください。	鬼光頭川橋A1橋台の構造物掘削における土砂Ⅰ及び軟岩の数量は、設計図(鬼光頭川橋下部工編)3/70に示す柱状図より判断いただき、必要と思われる費用を計上してください。
4	5月17日	設計図 (鬼光頭川橋下部工編)	42/70		構造物掘削特殊部Aで施工するグラウンドアンカーについて、削孔長に対する土質区分が設計図書から判断できませんのでご教示ください。	グラウンドアンカーの削孔長に対する土質区分は、設計図(鬼光頭川橋下部工編)3/70に示す柱状図より判断いただき、必要と思われる費用を計上してください。
5	5月17日	設計図 (鬼光頭川橋下部工編)	22/70		鬼光頭川橋A1橋台の深礎杭について、掘削長に対する土質区分が設計図書から判断できませんのでご教示ください。	鬼光頭川橋A1橋台の深礎杭の掘削長に対する土質区分は、設計図(鬼光頭川橋下部工編)3/70に示す柱状図より判断いただき、必要と思われる費用を計上してください。
6	5月17日	設計図 (鬼光頭川橋下部工編)	29/70		鬼光頭川橋P1橋脚の深礎杭について、掘削長に対する土質区分が設計図書から判断できませんのでご教示ください。	鬼光頭川橋P1橋脚の深礎杭の掘削長に対する土質区分は、設計図(鬼光頭川橋下部工編)3/70に示す柱状図より判断いただき、必要と思われる費用を計上してください。
7	5月17日	設計図 (トンネル編)	57～65/191		避難連絡坑標準断面図に記載されている溶接金網は、今回工事に含まれるでしょうか。今回工事に含まれる場合は、溶接金網の仕様と費用を計上する項目をご教示ください。	溶接金網は、コンクリートC2-1(S)の床版コンクリートに含みます。
8	5月17日	設計図 (トンネル編)	11/191		地質平面縦断面図の掘削方式・掘削工法で「全断面早期併合掘削工法・機械掘削」となっている支保パターンがありますが、早期併合時における「インバート吹付後の仮戻し」及び「インバートコンクリート施工時の二次掘削」に要する費用を計上する箇所が分かりませんのでご教示ください。	早期閉合における「インバート吹付後の仮戻し」及び「インバートコンクリート施工時の二次掘削」は、関連するトンネル掘削の単価項目に含むものとお考えください。

番号	日付	資料の種類	ページ	章の番号等	質問事項	回答
9	5月17日	設計図 (トンネル編)	11/191		上記に伴い、「仮埋戻し材の坑外仮置場からインバート仮埋戻し箇所までの運搬」および「二次掘削により生じるずりの坑外仮置場までに運搬」に要する費用を計上する箇所が分かりませんのでご教示ください。	「仮埋戻し材の坑外仮置場からインバート仮埋戻し箇所までの運搬」及び「二次掘削により生じるずりの坑外仮置場までの運搬」は、関連するトンネル掘削の単価項目に含むものとお考えください。
10	5月17日	質問に対する 回答書32番号 10			インバート埋戻し工の材料について、再生クラッシャーランが土木工事共通仕様書12-10に示された規格に適合する場合、特記仕様書17-1「再生資材の使用」の記載の有無に関わらず、使用可能と考えて良いでしょうか。	使用可能とお考えください。 【0703訂正】 本工事における再生資材の使用は、特記仕様書17-1のとおりお考えください。
11	5月17日	設計図 (参考図)	14/25		防音壁工AおよびBに支柱ついて、土砂基礎と軟岩基礎それぞれの本数を設計図書から判断できませんのでご教示ください。	参考図及び割掛対象内訳書を参考に、貴社の計画に基づき必要と思われる費用を計上してください。 【0621訂正】 防音壁工の基礎区分について、防音壁工Aは土砂基礎、防音壁工Bは軟岩基礎となります。